

【研究概要】

マスク着用は感染防止よりも同調のため!?

(論文タイトル: Why do Japanese people use masks against COVID-19, even though masks are unlikely to offer protection from infection?)

中谷内 一也 (同志社大学 心理学部 教授)

尾崎 拓 (同大学院心理学研究科博士後期課程 大学院生)

柴田 侑秀 (同上)

横井 良典 (同上)

【本研究の問題】

マスク着用者が増えることは本来難しいはず。欧米ではなかなか定着しなかった。

なぜならマスクは;

- ・他者への感染を防ぐ効果は高いものの、
- ・自分を感染から護ることの効果は、あるとしても弱い。

(最終4項に参考資料)

自分が着用しても、他人にメリットがあるだけで自分へのメリットは小さい。

「だから着用しない」と皆が判断すれば社会全体の感染リスクは高いまま。しかし、皆が、自分への直接的メリットがなくても着用すれば社会全体の感染リスクは低下し、回り回って自分にもメリットがある。

こういう構造をもつ対策行動が普及するのは難しいはず。ところが、日本では強制もされずに易々とマスク着用が広がった。なぜだろうか？

- ・可能性1: マスクを着用するのは、他者の健康を思いやってのこと
- ・可能性2: マスクが自分への感染予防に有効だと過剰評価(誤認)しているから
- ・可能性3: 新型コロナへの感染は深刻だから何とかしたい

これら3つの可能性は、基本的に、リスクを下げるためにマスクを着用するというものである。もし、これらの説明が当てはまるとすれば(可能性2に過剰評価という誤認はあるものの)、マスク着用は感染リスクの低減という合目的的な行為といえる。

しかし、疑問あり。

可能性1に対しては「人間はそんなに利他的か？他人のために長蛇の列をなしてマスクを求めたのか？」

可能性2に対しては「着用者の予防効果は低いと繰り返し報道されていた」

では他にどのような可能性が考えられるか。

- ・可能性4:「やれることなら何でも」と手近なマスクに飛びついた
- ・可能性5:他人が着用しているのをみて、同調しなければと思った
- ・可能性6:マスクをするとなんとなく不安が緩められる

これら3つの可能性は、基本的に、リスクを下げるという意図とは別ものである。もし、これらの説明が当てはまるとすれば、「人々は感染防止のためにマスクを求めた」という、自明と思われる理由以外の要因が効いていることになる。

→ もしそうなら、本来行われにくい対策行動を促すためには、感染防止を訴えるという正攻法以外の方法が可能であることを示唆する。

【方法】

調査参加者

インターネット調査会社にモニター登録する一般人1,000名。性別、年齢層、居住地(日本を7区分)は日本の全体データと概ね対応させている。

調査時期

2020年3月26日～31日。この時期、累積感染者は1,253 から1,887と拡大していた。4月7日の緊急事態宣言の1週間ほど前の時期であり、政府は不要不急の外出自粛を求めている。

【 質問項目 】

マスク着用の理由に関して以下の6項目の質問を行った。回答はいずれも「まったくそう思わない(1点)」から「非常にそう思う(5点)」までの5段階尺度で求めた。

- 1 [深刻さ] あなたがもし新型コロナウイルスに感染したら、症状は深刻なものになると思いますか。
- 2 [自分の感染防止] あなたは、マスクを着用することで新型コロナウイルスへの感染を防げると思いますか。
- 3 [他者への感染防止] 感染した人がマスクを着用すると、新型コロナウイルスを他人にうつすのを防げると思いますか。
- 4 [衝動的実施] あなたは新型コロナウイルスに対して、「何でもいいから、やれる対策はとりあえずやっておこう」と思いますか。
- 5 [同調] 街中や通勤・通学時にマスクを着用する人を目にすると、自分もつけた方がいいと感じますか。
- 6 [不安緩和] マスクを着用していると不安感を和らげられると思いますか。

【 質問項目 】

マスク着用の程度に関して以下の質問を行った。

新型コロナウイルスが騒がれるようになってから、あなたはマスクを着用しましたか。

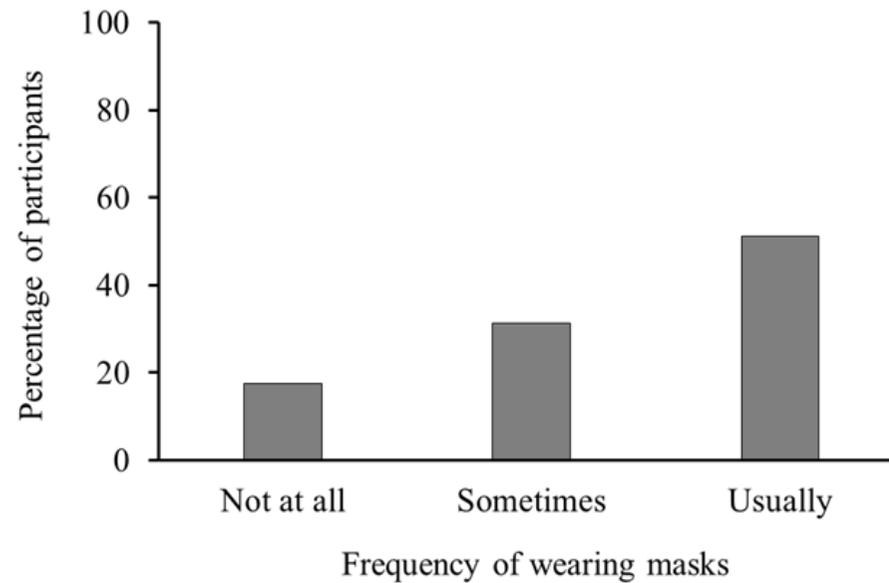
次の中からひとつ選んでください(花粉症対策目的の着用は除きます)。

- 1 まったく着用しなかった 2 少しは着用した 3 頻繁に着用した

【結果】

「マスク着用の程度」についての回答分布

→ この時期には着用者がかなり増えていたことが分かる



【結果】

6つの項目を独立変数、「マスク着用の程度」を従属変数とする重回帰分析。ある項目とマスク着用との結びつきを、他の5項目の影響を取り除きながら検討する分析法。

標準化偏回帰係数の大きさが結びつきの大きさを示す。表から、「同調」が断トツに高い値であることが分かる。それにつぐのが「不安の緩和」。これらの比べると「自他の感染防止」との関連はごく小さなものでしかないことが分かる。

	標準化偏回帰係数
深刻さ	- 0.06 (0.03)*
自分の感染防止	0.06 (0.03)†
他者への感染防止	- 0.06 (0.03)*
衝動的実施	0.05 (0.04)
同調	0.44 (0.04)**
不安の緩和	0.16 (0.04)**

$R^2 = 0.34$ † $p < 0.10$ ** $p < 0.05$ *** $p < 0.01$

【 考 察 】

人々のマスク着用は、他の着用者を見てそれに同調しようとする傾向と強く結びついており、一方、本来の目的であるはずの、自分や他者への感染防止の思いとは、ごく弱い関連しかない。

この春先、人々がマスクを求め国中が大騒ぎとなったが、マスクを着けることで他者への感染を防ごうという意図はほとんどなく、自分の感染予防でさえ微弱な理由でしかない。主な理由は、他の人がマスクを着けているので自分もそうしたい、という思いだった。

【 考 察 】

近年、人の判断・行動特性を理解し、それを踏まえて望ましい行動を促すナッジという手法が注目されている。今回の結果から、新型コロナへの各種対策行動を促すためには、人々の同調傾向を利用したナッジが有望であることが示唆される。ある対策行動を推奨するとき、正攻法で「この行動が感染リスクを削減します」と強調するだけでは不十分。

しかし、同調傾向を利用したナッジでは、他者が望ましい対策行動をしていることの可視性を高める必要がある。これを過剰に実施することは、お互いの監視を強化する窮屈な社会や、個人情報 の 拡散 といった人権侵害を助長するおそれもある。そのことを踏まえた慎重な情報環境設計が求められる。

マスクの効果に関する参考資料(国内)

新型インフルエンザ専門家会議 平成20年(2008年) 9月22日

新型インフルエンザ流行時の日常生活におけるマスク使用の考え方

1. 症状のある人が、咳・くしゃみによる飛沫の飛散を防ぐために不織布製マスクを積極的に着用することが推奨される(咳エチケット)。
2. 不織布(ふしょくふ)製マスクのフィルターに環境中のウイルスを含んだ飛沫がある程度は捕捉されるが、感染していない健康な人が、不織布製マスクを着用することで飛沫を完全に吸い込まないようにすることは出来ない。よって、咳や発熱等の症状のある人に近寄らない(2メートル以内に近づかない)、流行時には人混みの多い場所に行かない、手指を清潔に保つ、といった感染予防策を優先して実施することが推奨される。

マスクの効果に関する参考資料(国内)

いずれも他者にうつさないための対策である
ことが明示されている

新型コロナウイルス感染症対策

全国マスク工業会 厚生労働省 経済産業省 消費者庁

マスクについてのお願い

現在、予防用にマスクを買われている方が多いですが、感染症の拡大の効果的な予防には、**風邪や感染症の疑いがある人たちに使ってもらうことが何より重要です。**

#マスクの使い方考えよう #新型コロナウイルス対策

- 1 マスクは買い占めなくても大丈夫**
風邪や感染症の疑いのある人にマスクを届けるために、必要な分だけ買うようにしましょう。
- 2 使い捨てマスクがないときは代用品を使おう**
ガーゼマスクや、タオルなど口を塞げるものでも飛沫(くしゃみなどの飛び散り)を防ぐ効果があります。
- 3 こまめな手洗いなどの基本も大事**
帰宅時や、料理・食事の前など、口や鼻に触れる前に、こまめに手洗いなどをしましょう。

マスク不足を解消するために官民連携して
毎週**1億枚**以上のマスクを消費者のみなさまにお届けします。

感染症対策へのご協力をおねがいします

咳エチケット

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

■ほかの人にうつさないために
くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれません。次のような咳エチケットを心がけましょう。

- ・**マスク**を着用します。
- ・ティッシュなどで**鼻と口を覆います。**
- ・とっさの時は**袖や上着の内側で覆います。**
- ・周囲の人から**なるべく離れます。**

3つの咳エチケット 電車や会場、学校など人が集まるところでやろう

マスクを着用する(口・鼻を覆う) ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う 袖で口・鼻を覆う

何もせずに咳やくしゃみをする 咳やくしゃみを手でおさえる

正しいマスクの着用

- 1 鼻と口の両方を確実に覆う
- 2 ゴムひもを耳にかける
- 3 隙間がないよう鼻まで覆う

首相官邸 厚生労働省

厚労省 相談

マスクの効果に関する参考資料(WHO 3/30の見解)

感染者や看護者以外の一般市民がマスクを着けることは勧めないとの見解を改めて示した。

マイク・ライアン氏(緊急事態対応):一般市民のマスク着用は何らかの効果があることを示す具体的な証拠はない。むしろ、マスクの着け方が正しくない場合、逆効果になるとの報告もある。

マリア・バン・ケルクホーフェ氏(感染症疫学):市民のマスク使用については、自分自身に症状があり、周囲に感染を広げない手段とする場合以外は推奨しない。

マスクの効果に関する参考資料(WHO 3/30の見解)

若干、有効であるという方向に見解が変化。それでもあくまで、他者にうつさないことを通じての感染拡大抑制という面で。自分への感染予防に言及なし

マイク・ライアン氏(緊急事態対応):外科用マスクは第一線で対応する医療関係者のためにとっておく必要があるが、咳やくしゃみ(による飛沫の拡散)を防止するためにマスクを使ったり、口元を覆ったりすることは悪い考えではない。

手作りのマスクや布製のマスクを一般市民が使用することは、新型コロナウイルス感染拡大の全般的な抑制の一助になる可能性がある。